ななやまだより　５２号

2021 年 5 月 9 日　なな山緑地の会発行

なな山緑地の会　会長就任の挨拶

2021 年 4 月　宮﨑　裕

新緑のなな山

昨今回の総会で会長の役を引き受けた宮﨑です。

私は 2014 年の秋に森木会のグリーンボランティア初級講座を修了して直ぐに、このなな山緑地の会に入会しました。当時、ボランティア活動はどういう事をするのか、殆ど分かっていませんでしたが、今日まで先輩たちの活動を見習いながら 7 年弱の間いろいろな事を体験してきました。

幸いにも活動観察記録の作成を 2015 年 6 月より、前任者の指導を受けながら担当して来ましたので、活動内容については一定の知識と理解はあります。しかし、今回、突然に会長と言う大役を引き受け、正直未だ戸惑いと務まるかどうか不安でいっぱいです。

間伐で奇麗になったアズマネザサ林

これから、先輩の指導受けながら会長の務めを覚え、力強い幹事や皆様の協力を得ながら、なな山緑地の会が発展するように進めていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いします。

なな山に復帰して

永田　美夫

斜面の様子を見て廻る永田さん

2019 年の 10 月に駅前のクリニックで初めて胃カメラを呑んだところ（ちなみに美味しくはありませんでした）食道癌が見つかりました。すぐに埼玉医大病院に紹介状を書いてもらい、1 月と 2 月に各 2 週間の抗癌剤投与入院、3 月に除去手術を受け、一旦は退院したものの誤嚥性肺炎を発症して 2 日で病院に U ターン。結局最終的には 5 月に退院しました。

「人間 70 余年も生きていれば癌細胞の一つや二つは出来て当たり前、要するに年寄りは早く退場しなさいという天の声だよ」と達観を装っていましたが、内心かなりビビッていたのです。しかし担当の K 医師（この人は食道癌治療の権威らしいです）に励まされ、思い切って手術を受けてよかったと思っています。

心配して電話をくれた高木（前）会長、庄子さん、病院まで見舞いに来てくれた戸谷さんには、本当に感謝しています。また復帰した私を迎えてくれたメンバーの皆さんの笑顔には、本当に救われました。

人生 75 年、我儘一杯に生きてきました。いまさらこの生き方を変えることはできませんが、会長も替り、ナラ枯れ病などの新しい課題も出てきているなな山緑地の為に、これからも微力ながら尽くしていければと思っています。（本当は自分のためだけどネ）

ナラ枯れと里山保全

庄子　元

2020 年 8 月森木会からの報告ではじめて聞いた「ナラ枯れ」。みなさんの反応が早く、西の山で次々と見つかる。松枯れとイメージが重なり、なな山から樹木が消える……と動揺。このときこそ「正しく知る」ことの大切さを実感した。

関東南部に限れば、ナラ枯れの被害はほぼコナラ。ナラ枯れはナラ菌が樹木の細胞を壊し、これに抗する樹木の防御反応で導管が詰まる病気。樹液が樹冠に届かず、葉が全枯れし枯死木になることも。このナラ菌を媒介するのがカシノナガキクイムシ（以下カシナガ）。カシナガはコナラに穿孔して内部で繁殖する。

カシナガトラップ取り付け

9 月西の山からスタートしたナラ枯れ調査は、ササが生い茂るなかヤブ漕ぎをしながら樹木 1 本 1 本を見て回るという悪戦苦闘の連続。すぐ側にいたはずの仲間がヤブに消え、大声で動静を確認することもしばしば。急斜面で滑り落ちても助けに行くのにひと苦労。7 回に及んだ調査の結果、コナラ 437 本のうち、枯死木（全枯れ）6 本、感染木 32 本。特に西の山の被害が激しかった。感染木とは被害を確認できるが全枯れしていないもの。感染しても耐えて生育する可能性が高い。

ナラ枯れビニール被覆作業

2 月からナラ枯れ対策が始まった。方針は 3 つ。①枯死木は、伐採し域外搬出のうえ焼却。これは多摩市依頼の業者が行う。②感染木は、カシナガの新成虫が飛翔してナラ枯れを拡散するのを防止するためビニールシートで被覆する。タオルを巻いた二重防御も行う。③未感染の健全木は、カシナガの穿孔を予防するためトラップを取り付ける。いずれも対策初年であり効果は未知数だが、成果を期待したい。ビニールシート被覆は思いのほか難行だ。特に根の周りを掘り起こしシートの端を埋め込む作業には手間取ってしまう。新成虫が飛翔する 5 月下旬までに準備を整えたい。

ところで、このナラ枯れはカシナガが大量に発生することが原因。カシナガは繁殖に最適な大径木を好んで穿孔する。昔コナラは薪炭用に 15 年ほどで伐採し、萌芽更新を繰り返していたため大径木が少なかった。燃料革命で石油・ガスが普及し、薪炭の需要が減る。放置されたコナラが大径木になり、カシナガの繁殖拡大につながった。程度の差はあれコナラすべてがナラ枯れに感染すれば終息するが、立ち枯れした木を放置するのは危険だ。大径木を減らしながら、コナラとカシナガの共生を図り、ナラ枯れの被害を抑えることがポイント。皆伐で生態系を破壊するより、区画を絞って数年単位で伐採する「エリア伐採」は有効な手法のひとつだ。生態系を維持・更新し、生物多様性を活かすサステナブルな里山保全の試みがテーマとなる。これには長期的な保全活動が欠かせず、私たちの継続的な活動が求められている。

『なな山緑地の植物』

なな山に成育する植物の花と実を掲載したパンフレットです。
グリーンライブセンターで頒布しています。
なな山の散策の友としてぜひご活用ください。
・春夏秋冬の植物 236 点(花 189 点、実 47 点)を収録
・24 ページ（表紙含） 200 円

犬の寿命

出口　英隆

愛犬　カピ

犬の寿命は中型犬でおよそ１５歳である。計算式により人間の年齢に換算すると７６歳らしい。３年前までうちも中型犬（柴犬・オス）を飼っていた。１３歳と１１ヵ月で逝ってしまった。人間年齢換算でおよそ７２歳となる。上の寿命と比較してもう少し長生きしてもらいたかったと残念に思っている。寿命が短かったことに心当たりがある。うちの柴犬はその特性から番犬として庭の隅に犬小屋を置き飼っていた。犬は先祖より寒さには強いが暑さには滅法弱い生き物だ。飼い始めた今から１７，８年前の夏の暑さは今ほどでなく、最高気温でも３３度位であったが、最近の夏はそれ以上が連続続き、どっかで３８度を超えても驚かなくなった。人間でもクーラーが無ければ熱中症で死んでしまう。増して犬の場合は堪らない。クーラーを掛けてもである。あの夏の暑さには勝てない。これを十数年間、少しずつストレスが貯まっていったに違いない。今はもう、番犬であっても外で飼うことは許されない。気温上昇傾向は今後も続くらしい。恨みたくなる思いである。

定年後、この愛犬カピと毎日朝晩の２時間ウオーキングを続けていた。中型犬なので小型犬と違い中速で良く歩く。純日本犬である柴犬は賢く、活動的である。特にジャンプ力は素晴らしく、ちょっと高いなと思うバーも軽々飛び越える、そんな自慢の犬であった。毎日の適度の運動のお陰で私も老人性フレイルにならず元気に歩けている。ところが、亡くなる半年前から急に足腰が衰え次第に歩けなくなった。獣医さんに診てもらったが分からず寝たきりとなり、手立ての甲斐なく２か月後に亡くなった。手厚く供養しよう思い、いろいろ調べて府中の慈恵院という動物霊園にお世話になることにした。ここは人間の葬式と同じようにお坊さんが常におられお葬式を挙げてくれるというのにはびっくりした。うちの場合は合同慰霊葬とした。

少し経ってから日常生活に物足りなさ、寂しさを感じた。ペットロスというのかも知れない。それでペットショップ店で似た子犬を探していたとき、その店主が高齢者には売れないと言うではないか。あなたの歳だと人間の方が先に死んでしまうからだと。致し方なく断念した。元気に走り回っていた昔を思い出し、やるせない気持ちになった。

なな山植物誌

なな山のヤマアジサイ

山紫陽花　アジサイ科

受粉前のヤマアジサイ
（Wikipedia）

装飾花が裏返しになった
「なな山のヤマアジサイ」

なな山の西の谷の奥にヤマアジサイが１株あります。目立たない場所なので、季節になると人知れずにひっそりと咲いています。この木は園芸種のヤマアジサイかもしれないという専門家の意見ですので、ここでは「なな山のヤマアジサイ」ということにしておきます。ヤマアジサイの花はガクアジサイよりも小ぶりで葉に光沢はなく、葉裏の脈腋に短い毛があります。外側の大きな花弁のように見えるのはガクが変化した装飾花です。実際に受粉して結実するのは中央の小さな花です。花にはよい香りがありません。そのためでしょうか、装飾花は精一杯大きくひろがり、昆虫に花のありかを知らせます。他のヤマアジサイの花粉を背負ってきた昆虫は中央の小さな花の上を動きまわります。受粉が済むと装飾花は裏返しになり、受粉が済んだことを昆虫に知らせます。これで終わりではありません。秋になると下を向いた装飾花は風をとらえて、中央の熟した小さな種をできるだけ遠くへまき散らすのです。親元から遠く離れた生育に適した環境にたどり着くことをねらっての仕掛けでしょう。（中原）

桜ヶ丘第一保育園なな山遊び　　日にち：1月22日（金）・2月26日（金）

桜ケ丘第一保育園なな山で遊ぶ（１）

１月２２日（金）１０時前、春を思わせる暖かい日差しの中、桜ケ丘第一保育園の年長さん２４人と先生３人がなな山にやって来た。広場に着いて「こんにちは！」、さっそく西の山へ。落葉の斜面でソリ滑り。恐る恐るソリに乗る。乗せる役の先生が「後ろに乗って、足を伸ばして前に掛ける」と乗る位置を修正。「それ！」と手を放すと勢いよく滑り出し見事下まで完走。子供たちはビックリ。滑りのコツを覚えた猛者たちが落葉のプールに突入する。その度にあちこちから「ヤッター！」の歓声と拍手。落葉まみれも気にせず起き上がる。「給食の時間に間に合わなくなる！」と先生の声。あっという間に１時間が過ぎる。最後になな山を一回りして冬の里山を探索し、山神さまにご挨拶。また来てね。

斜面のソリ滑り

その頃、もう一組の子供たちが西の山で落葉シャワーを浴びていた。近所の百草台保育園の子供たち１７人と先生。ソリ滑りがうらやましそう！今度は連絡してきてね。待っています。

赤いドングリ探し

桜ケ丘第一保育園なな山で遊ぶ（2）

２月２６日（金）９時 30 分、桜ケ丘第一保育園の年長さん２４人と先生４人がなな山にやって来た。前回の１月は落葉滑りだったが今回は工作となな山探索がテーマ。探索が始まるとすぐに広場でストップ。「ドングリの殻が割れて赤いよ」と声をかけるとみんな屈んでドングリ探し。次に落葉だまりの前で「入っていいよ」と勧めるとふかふかの落葉に半身埋もれて踊っている。落葉を両手で抱え込んで友達に落葉のシャワー。みんな落葉まみれだ。思いっきり落葉のプールで遊んだ後探索開始、モミジイチゴの白い花を見てアズマネザサのトンネルをくぐる。ホダ木のシイタケ探しやカタツムリの幼虫に触れたり。最後は山の斜面を駆け回る。あっという間に時間が過ぎ、ブンブン独楽作りはお土産に。落葉のお土産みんなの洋服に付いていなかった？（庄子）

落葉のプールで遊ぶ子どもたち

エコメッセ府中「自然と親しもう」　　日にち：2月7日（日）

４月を思わせる暖かさの２月７日（日）エコメッセから４名があつまった。「自然と親しもう」のイベントだったが、緊急事態の延長で子供たちの参加が取りやめになってしまった。

それで４名に加えてなな山から数名が加わって落葉かきとなった。挨拶後熊手などをもって西の山へ、斜面でさっそく落葉かき。黙々と作業。10 分ほどすると「暑い！」の声。上着を脱いでも汗が出る。落葉を落葉溜めに運ぶと数回でいっぱいに，乗って踏み込むと体の半分ほどが沈む。かいてもかいても減らない落葉。「休憩にしましょう」とＳ埼さんから声がかかる。広場で水分補給。作業再開はなな山めぐりから。冬の植物観察とお土産のシイタケ採取をして落葉かきを再開。斜面の地肌が見える様になったところで終了。子供たちが来なかったのは残念でしたが「エコメッセもなな山の団体会員だ」と頑張ってくれたのは嬉しかった。また、いろんな花が咲く頃に来て下さい。お待ちしています。（庄子）

熊手で落ち葉を集める

第二小学校へカブトムシの幼虫をプレゼント　日にち：2月28日（日）

カブトムシ幼虫の掘り出し

多摩第二小学校 PTCA のおやじの会では、毎年「なな山で遊ぼう」と題し、なな山緑地の会のご協力のもと、小学生の子供たちと山遊びを行なっていました。しかし去年（２０２０年）は、直前まで準備を進めていたものの、感染者数増加の兆しが見え始めたことから泣く泣く断念することとなりました。この時、子どもたちが本当に寂しがっていたことが、何よりも残念でした。そんな中、年明けになな山緑地の会の高木会長から「カブトムシの幼虫を子供たちに配っては？」とのお声をいただき、少しでも山遊びの楽しみを子どもたちに届けようと、声をかけたところ、なんと 126 匹もの応募がありました。学年、男女を問わず、たくさんの子どもたちに、なな山のカブトムシを届けることが出来ました。みんな、カブトムシの成長とともに、来年度（今年末）のなな山を楽しみにしています。来年度こそ、このコロナ禍が落ち着き、楽しい山遊びが出来ることを、心から祈っています。なな山緑地の会の皆様、本当にありがとうございました。（多摩第二小学校 PTCA　おやじの会一同）

南鶴牧小なな山観察　日にち：3月27日（土）

ドングリからコナラの芽生えを観察

参加者：Ｆ田副校長先生・保護者 大人２人、新５年生５人、新４年生１人 計 子ども６人・なな山緑地の会 計４人

緑地をひと通り回って、花と実、芽生え、そして新緑を味わう。

西の山では、ドングリからコナラの芽生えを観察して、ナラ枯れ対策の試みの説明がある。中の山では、整備された常緑広葉樹の林と、西の山の落葉広葉樹の山との違いを確認する。東の山では、アズマネザサの林が整備された状態を見て、めかいづくりやシノダケ・ヒンメリづくりの材料を採取する場所であることを意識する。中の谷では、まばらながらも生まれ出たシイタケを手で摘み取る体験をし、少々のお土産とする。希望者は落ち葉だまりでカブトムシの幼虫を探す。

シイタケ摘み体験

次回の５月には、今日と違ったなな山緑地になります。また来ることを約束しました。（相田）

グリーンボランティア初級講座第１９期　日にち：4月24日（土）

ご神木前で説明

幸い朝から一日中、天気に恵まれ恒例の挨拶、説明、講義を無事終えました。

自然観察はコロナ禍を避けるため、受講生を３班に分け、４箇所の説明ポイント（西の山、中の山、東の山、中の谷）に説明者を配置し、引率役がルートを決めて案内するという方法で行いました。各説明者が分かり易い説明をしたようで、終了後の感想で一定の評価を得られたことを喜ばしく思います。

後半行われた草刈り実習では実習生のイキイキとした作業ぶりが見られよい講座となりました。（鎌田）

なな山日記（活動・観察記録）

No. 400　2021年　1月10日(日)　晴　気温　8℃
参加者　18人
山始めの神事を行い、皆で安全祈念をした。

● 作業/安全祈願の神事、法面で刈ったカヤの整理、ヤマザクラ伐倒準備、ヒンメリ材料の収集。
● 観察/ウメ（白梅）。

No. 401　2021年　1月31日(日)　晴　気温　12℃
参加者　16人
中の山の伐倒ができた。ナラ枯れ伐倒対象外の木の保護方法の議論が行われた。

● 作業/ダイコン収穫、西の山刈払い、中の山ヤマザクラ伐倒・玉切り、シガラ補修。

No. 402　2021年　2月14日(日)　晴　気温　18 ℃
参加者　20人
傾いていたヤマザクラの処理ができた。

● 作業/クヌギ苗木の掘り出し、ヤマザクラ・クヌギの伐倒、ホダ木準備。
● 観察/カワヅサクラ、ジャノヒゲ実。

No. 403　2021年　2月28日(日)　晴　気温　18℃
参加者　20人
ナラ枯れ対策の体験講習が行われた。二小の 6 年生に配る為、おやじの会がカブトムシの幼虫を取りに来た。

● 作業/ナラ枯れ対策、トイレの目隠し修理、ダイコンの種まき。
● 観察/アセビ、ウグイスカズラ、モミジイチゴ。

No. 404　2021年　3月14日(日)　晴　気温　20 ℃
参加者　19人
カシナガが飛来する時期に備え、対策を進めていくことになった。

● 作業/ナラ枯れ対策、ヤマザクラ伐倒、苗床の養生。
● 観察/エドヒガン、オオイヌノフグリ、シュンラン、ニオイタチツボスミレ。

No. 405　2021年　4月　4日(日)　晴　気温　20 ℃
参加者　19人
総会が行われ、新体制で新年度がスタートした。

● 作業/総会、シイタケ・ナメコ菌のコマ打ち。
● 観察/ウメの実、ウワミズザクラ、オニタビラコ、タマノカンアオイ花ホウチャクソウ。

No. 406　2021年　4月11日(日)　晴　気温　19 ℃
参加者　21人
アオゲラのつがいがヤマザクラの幹に巣作りしていた。皆で見守りたい。

● 作業/ナラ枯れ対策、畑作業、カシナガトラップ作成、ヤマザクラ伐倒。
● 観察/キンラン、エビネ、アオゲラ（鳥）。

No. 407　2021年4月25日(日)　晴　気温22 ℃
参加者　19人
中の山の歩道脇ががけ崩れとなっていたため迂回路を作った。

● 作業/ヒノキ伐採、中の山迂回路作り、カシナガトラップ製作・設置。
● 観察/エビネ、フジの花、ホウの花。

編集後記

前月の総会から新体制となり着実に軌道に乗ってきているようです。小紙も新しい時代に相応しい紙面づくりに努力して参ります。

コロナ禍の最中ですが、なな山で開催されるイベントは目白押しで、「イベント紹介」が紙面を賑わせています。感染予防に努めながら活動にイベントに頑張っていきましょう。K

なな山だより　第52号　2021年　5月9日発行

発　　行	なな山緑地の会
発行責任者	宮﨑　裕
住　　所	東京都多摩市関戸 2-9-6
ホームページ	https://nanayamaryokuti.jimdofree.com/
編集委員	鎌田文雄　飯田歩